まきばでひとやすみ。

知的障害、精神障害のある方々と日々関わる仕事をしていますが、とある精神障害の方は、ほぼ毎週のように同じ悩み、思いを話してきます。「今の自分は病気になる前と比べてみじめに思える」という、いわゆる「受容」ができないが故に出てくる、色々な思い、葛藤、情けなさ…といったものです。「この前同じ話をして励まして（というのもおこがましいですが）少し前向きになったと思ったのにな…」と思いつつも、話を聞き、また私なりの体験や知ってることを交えて話します。そんな中でいつも思うのは、今背負って1人で抱え込んでしまっている重荷、思い煩いを全部一旦手離せたらどんなに楽だろうな、ということです。そして、それを受け取めて心配して下さるのはイエス様しかいない、と毎回話をしながら、実感するのです。なので、話しながら自然と聖書の言葉が浮かび、それに沿った言葉が口から出てくるのです。私の知識や体験などそれに比べたら本当に浅いもので力が及ばないな、とひしひし感じます。「何のために生きるのか」とか「どうして命を大切にしないといけないのか」という非常に大きくて重い問いへの答えが「神」なしには絶対に答えを導き出せないように。1人1人の人生に必ず神様が意味を、目的を与えて下さっていること、を確信することなしに、病むことや自分にとって良いと思えないことを受け取め前向きになるのは難しいことに思えます。「ロバ子さんは今悩みとかないんですか」と聞かれ思いを巡らしましたが全く思いつかず「ないですね」と答えましたが、これは楽天家だから、なのではないということ、なぜそうなのか、の核心をもっと、これからジワジワ話していきたいなと思っています。ロバ子